

二〇一九全国フォーラム 記念講演 志水 廣氏

教科書で どの子どもみんなできるようになる 楽しい授業を

報告者 堀井 克也

「はつきり言って、授業がみんな甘い。」

講演が始まって間もなく、志水先生が語気を強めて仰った言葉に、思わず息をのみました。一人残らずみんなできるようにするということは大変難しく、なかなかできることではない。でもそれを目指さなければならぬ。まさに「どの子ども伸ばす」という学力研の理念と合致するお話でした。これまで、子どもに分かる授業をしようとする苦しみや辛さをあまり感じていなかったことを、深く反省しました。

特別な教材を使った特別な授業ではなく教科書を使った、毎日の授業を面白くしなければならぬ。授業で「わかる・できる・たのしい」と感じると、子どもはやる気が出て自ら学ぶようになるかと教えていただきました。

今回は「問題解決が楽しい授業」を中心にお話をされました。その中で特に心に残ったのが「良い授業には、子どもらしい言葉がある」というお言葉でした。

例として「ずるい」という子どものつぶやきを挙げておられました。自分が授業をしていて子どもが「ずるい。」とつぶやいたとしても、何をとぼけたことを言っているんだと流してしまおうと思いません。しかし志水先生は、子どもの素直なつぶやきを丁寧を受け止め、そしてそれを周りの子どもたちへと広げて、さらにそのつぶやきの意味を深めていくのが大切だと言われました。

これがストンと腹に落ちたのは、模擬授業を受けていた時です。私も子ども役で参加させていただいて、プリントの数

直線に目盛りが無いことに気付いて「定規が欲しいなあ。」と小さくつぶやいたところ、すかさず志水先生がそのつぶやきを拾って下さいました。こういう先生の授業だと、子どもらしい言葉はたくさん出てくるだろうと思いました。

二期からの算数の授業づくりのヒントを、たくさんいただきました。

実践報告 岡本美穂

「授業での『あい』が

教室を豊かにする」

学力研が大切にしてきた、学力づくり。その学力づくりで学級づくりをする、という具体的な方法をいくつも示されました。どの子ども伸ばすことでどの子ども輝かせ、成長できた喜びを分かち合うことで子ども同士をつなげていく・・・見せていただいたどの動画にも、子どもたちのキラキラ輝く笑顔が映っていました。

岡本先生の熱のこもったお話を聞いていくうちに、私の心にも熱いものが湧き上がってくるのを感じました。二期が始まるのがとても楽しみになりました。